



令和5年7月26日

佐賀県内経済情勢報告

令和5年7月

財務省福岡財務支局 佐賀財務事務所


<お問い合わせ先>

財務省福岡財務支局 佐賀財務事務所 財務課

電話 (0952) 32-7161

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、緩やかに回復しつつある」

| 項目 | 前回（5年4月判断） | 今回（5年7月判断） | 前回比較 |
|------|------------|-------------|---|
| 総括判断 | 持ち直している | 緩やかに回復しつつある |  |




(注) 5年7月判断は、前回4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。


(判断の要点)

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

【各項目の判断】

| 項目 | 前回（5年4月判断） | 今回（5年7月判断） | 前回比較 |
|----|------------|------------|------|
|----|------------|------------|------|

| | | | |
|------|---------------------------|-------------|---|
| 個人消費 | 持ち直している | 緩やかに回復しつつある |  |
| 生産活動 | 物価上昇等の影響がみられるものの、持ち直しつつある | 持ち直しつつある |  |
| 雇用情勢 | 緩やかに改善しつつある | 緩やかに改善しつつある |  |

| | | | |
|------|-----------|-----------|---|
| 設備投資 | 4年度は減少見込み | 5年度は増加見込み |  |
| 企業収益 | 4年度は増益見込み | 5年度は減益見込み |  |
| 住宅建設 | 前年を上回っている | 前年を下回っている |  |

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、回復していくことが期待される。ただし、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費「緩やかに回復しつつある」

百貨店・スーパー販売額は、外出需要の増加により衣料品が好調であるほか、商品単価の上昇などから、前年を上回っている。

コンビニエンスストア販売額は、人流が増加したことなどから、前年を上回っている。

乗用車新車登録・届出台数は、供給面での制約が緩和され、前年を上回っている。

ホームセンター販売額は、巣ごもり需要の反動などから前年を下回っている。家電大型専門店販売額は、コロナ禍の買い替え需要が一巡し前年を下回っている。ドラッグストア販売額は、外出機会の増加により化粧品が復調しているほか、商品単価の値上げなどから、前年を上回っている。

(主なヒアリング結果)

- 外出機会の増加により、靴、服飾雑貨の売上が好調。(百貨店・スーパー)
- 夏祭りに向け、浴衣の初動が好調。飲食やお土産購入など、サンライズパークの経済効果もでている。(百貨店・スーパー)
- 中食需要の定着により、引き続き惣菜や冷凍食品が好調。(百貨店・スーパー)
- 5月の連休は通常通りイベントも開催され人流は活発であり、総じて人が集まるところの売上は好調に推移している。(コンビニエンスストア)
- 生産台数の増加により、納車の長期化が改善している。(自動車販売団体)
- 客数及び売上高の減少は、コロナ禍で買い替え需要が一巡したことのほか、消費行動が観光やレジャーに振り替わっているものと思慮。(家電大型専門店)
- コロナが5類に移行してから、昼夜ともに客足は増えてきている。(飲食)

■ 生産活動「持ち直しつつある」

食料品は、物価の影響がみられるものの外食向けを中心に回復するなど、ほぼ横ばいで推移している。電気機械や生産用機械等は、供給面での制約等の影響がみられるものの、持ち直しつつある。電子部品・デバイスは、高水準ではあるものの、世界的な半導体需要の軟化の下、在庫調整により、減少傾向となっている。

- コロナが5類に移行し外出の機会が増加したことで、出荷が増えている。(食料品)
- 引き続き部品の入手難により生産が落ちる状況が続いている。受注は堅調であり、部品次第。(電気機械)
- 海外経済の減速など先行きの不透明感が強いことから取引先の設備投資に対する慎重姿勢が続いており、受注が増えていない。(生産用機械)
- 自動車の生産が戻っていることを背景に受注が増えており、この状況が続くと判断している。(生産用機械)
- 5-6月は4月より生産水準をあげており、7月も6月と同水準で推移する見通し。半導体等の部品不足が改善傾向にあり自動車生産が回復しつつあることから、自動車部品を製造している当社の受注も増加している。(輸送機械)
- 車載向けは需要があるものの、PC・スマホ向け等は需要が落ちている。フル稼働はしているものの、少しずつ生産量が落ちている。(非鉄金属)

■ 雇用情勢「緩やかに改善しつつある」

小売業等で求人数が増加し、有効求人倍率が高水準で推移しているなど、雇用情勢は緩やかに改善しつつある。

- 小売業で人手不足が顕著になっているほか、自動車関連や宿泊・飲食サービス業においても求人が出ている。また、より好条件を求めて転職を検討する者や、物価高の影響で高齢者等の求職者も増えている。(公的機関)
- 正社員・パート社員が継続的に不足している。新規出店に伴う不足分の人員を既存店舗の従業員の配置転換により補充している。(小売業)
- 全国的な賃上げムードの中、人材確保はますます難しくなっている。(金属製品)

■ **設備投資** 「5年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年4-6月期

5年度の設備投資額は、製造業は前年比358.9%の増加見込み、非製造業は同14.1%の増加見込みとなっており、全産業では同254.2%の増加見込みとなっている。規模別にみると、大企業、中堅企業は増加見込み、中小企業は減少見込みとなっている。

■ **企業収益** 「5年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年4-6月期

5年度の経常利益(「電気・ガス・水道業」及び「金融業、保険業」を除く)は、製造業は前年比41.5%の減益見込み、非製造業は同7.1%の減益見込みとなっており、全産業では同35.2%の減益見込みとなっている。規模別にみると、大企業、中堅企業は減益見込み、中小企業は増益見込みとなっている。

■ **住宅建設** 「前年を下回っている」

住宅建設を新設住宅着工戸数で見ると、前年を下回っている。

(その他項目)

- 企業の景況感を法人企業景気予測調査(5年4-6月期)の景況判断BSIで見ると、5年4-6月期は、引き続き「上昇」超となっている。先行きについて、5年7-9月期は、「下降」超に転じる見通しとなっている。